

## 教材紹介

### 【自己認識を深めるための取り組み】

- きこえにくい子どもたちが、自分自身の聴力やきこえ方、きこえにくい状況など把握し、少しでも解消できるような方法を考えたり、きこえる子どもたちにどのように依頼をしたり説明をしたりするとよいのか考える
- 騒音の軽減をはかる(教室内の机やイスにテニスボールをつける、ワイヤレス補聴援助システムを活用する)、手話通訳を行う、動画を見る時は字幕を入れる、話す人が書いた原稿があれば渡すなど、様々な方法で情報保障をしていることと関連付けて取り組む

### 1. 低学年の取り組み

- きこえにくい(分かりにくい)状況を知る:いつ、きこえにくくなるのか分かっていない場合が多いので覚える
- どうして、きこえにくい(分かりにくい)状況になるのか説明できるようにする

#### 【きこえにくい(わかりにくい)とき】

- ①うしろからよばれたとき
- ②マスクをつけている人と はなすとき
- ③はやくちで いわれたとき
- ④まわりが やかましいとき:とくに やすみじかんの うんどうじょう
- ⑤たくさんの人が どうじにはなすとき(グループでのなしあいなど)

#### <きこえにくい(分かりにくい)理由>

- ①声が小さいくなる、だれに言っているか分からない
- ②声が小さくなる、声がこもる
- ③声をはっきりききとりにくい
- ④騒音が大きい、雑音が多いとききとりにくい
- ⑤話す人だれか分からない(特定できない)

#### <解決方法>

- 必ず前から話しかけてもらうようにする
- ききとれない時は、身ぶりや手話を使ってもらう  
書いてもらう(メモに書く、空書、机に指で書くなど)
- あらかじめ、「話す時は、少しゆっくり言ってほしい」とお願いしておく
- 身ぶりや手話を使ってもらうか、可能であれば書いてもらう、静かな場所へ移動する
- 一人ずつ合図をしてから話してもらう、必要に応じて、ワイヤレス補聴援助システムのマイクを使う

#### \*上記以外のきこえにくい(分かりにくい)状況

- ・水泳
- ・合唱や合奏中
- ・声が反響する場所:体育館、玄関など
- ・字幕のない動画を見る時 など

### 2. 中学年用以上

- 子どもたちが書いた作文を利用し問題文(子どもたちの了承を得て他学年の子に使用)を作成する
- きこえにくい子どもたちの体験から、どんな状況が分かりにくいのか、どうしてそのようになったのか原因を考える
- 自分なりに解決策を考える
- 読解の学習をすることにも取り組む:最後に題も考えてつける

体験談7

題

」

体育のじゅぎょうは、体育館へいどうし、とびばこのれんしゅうをするようになりました。

グループにわかれ、じゅんばんにとび、見ている子が、とんだ時のようすを見て、「①」を言うことになりました。

いよいよとびばこをとぶじゅん番がまわってきて、とびましたがうまくとべなくて、とんだあと、ころびそうになりました。

すぐ同じグループの子が

「もう少し……したほうが

いいよ。」

と、アドバイスをしてくれました。

まわりの「②」が多くてききとれませんでした。

「もう一回言ってくれる。」

と、「③」したいとおもいましたが、つぎの人がとぶじゅん番になったので、聞くことができませんでした。

しかたなく、れつにならぶと

先生がこられ

「今、とんだ子のようにとびばこをとぶとき、手を前についたほうがいいよ。」

と、せつ明してくださいました。

(アドバイスをしてくれた子は

④) について

おしえてくれていたのか。)

と、やっとわかり、なっとくできました。

\*学習内容

○空白部分に入ることばを考える

①アドバイス ②雑音 ③確認、ききかえ ④手のつき方

○友だちのアドバイスが、ききとれなかった理由

- ・まわりに雑音が多かった。
- ・早口で言った。声が小さかった。下を向いて言った。

○解決方法

- ・アドバイスをしてくれる友だちにロジャーのマイクを使ってもらう。
- ・身ぶりや知っている手話を使い説明してもらう。
- ・どうすればよいか見本を見せてもらう。
- ・いつアドバイスをしてもらいたいかに事前に確認しておく(自分から聞いた時に伝えてもらう)。など

○作文の題を考える

- ・とびばこを上手にとぶためのアドバイスがきこえなかった
- ・とびばこが上手にとべる方法が後で分かった など